

私たちの町の遺跡

大名墓物語 細川家の人々

■第10話 時代の縮図

父重賢の跡を継ぎ、改革を志しながらも、藩主在任期間わずか2年、30歳の若さで亡くなった肥後細川家7代藩主細川治年（はるとし）。今月は、妙解寺（みょうげじ）跡にある彼の墓の脇に立ち並ぶ石灯籠の配列に注目します。石灯籠は10基あって、それぞれに奉納した人の名前が刻まれています。これを見ると…。

奥から順に、細川忠昌（一門主座内膳家）→細川興禎（一門二座刑部家）→松井當之（三家老首座）→米田是知（三家老二座）→有吉立喜（三家老三座）→松井徴之（三家老首座の跡継ぎ）→堀平太左衛門・平野新兵衛（家老）→小笠原備前・志水才助（中老）。

そうです。藩主家のご一門→門閥家老→実力家老・中老という順番で並んでいるのです。これは、藩内での身分・序列を定めた嗣蔭令（しいんれい）という法令に沿ったもので、会合の時の席順でもあります。同じ配列は、黒髪泰勝寺（たいしょうじ）跡にある8代藩主斉滋の墓の石灯籠にもみられます。

厳しい身分制によって社会の秩序を保っていた江戸時代。藩主墓に奉納された石灯籠の配列は、そんな時代の縮図ともいえるのです。

熊本市文化振興課 美濃口雅朗

藩主の墓に奉納された石灯籠の並びにも藩内序列か…
厳しい身分制度の縮図だな

